

CE770

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CE770 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2019 年 1 月 7 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②型番 CL から始まる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	3 年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それでも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC に関する情報.....	3
RoHS.....	3
安全にお使い頂くために.....	4
全般	4
ラックマウント	6
同梱品.....	7
本マニュアルについて.....	8
マニュアル表記について.....	9
第1章 はじめに.....	10
概要	10
特長	12
システム要件.....	13
コンソール.....	13
コンピューター	13
ケーブル	13
OS.....	14
製品各部名称	15
CE770L (ローカルユニット) フロントパネル	15
CE770RQ (リモートユニット) フロントパネル	16
CE770L / CE770RQ リアパネル	17
サイドパネル.....	17
第2章 セットアップ方法.....	18
ラックへの取り付け.....	18
セットアップ	20
製品の接地.....	20
セットアップ	22
接続図	23
第3章 操作方法.....	25

操作モード	25
操作モードの選択	26
デスキューと画質補正	27
LED ランプの表示	29
CE770L (ローカルユニット)	29
CE770RQ (リモートユニット)	31
ホットキーセッティングモード	32
ホットキーセッティングモードの起動	32
ホットキーセッティングモードの代替起動キー	33
キーボード操作プラットフォーム	33
ホットキー一覧表	34
第 4 章 キーボードエミュレーション	35
Mac キーボード	35
Sun キーボード	37
付録	38
製品仕様	38
トラブルシューティング	41
SPHD コネクタについて	41

EMC に関する情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を全て受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

CE による注意:本製品は Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。その際は、ユーザーご自身にて、適切な処置を行ってください。

提案:FCC および CE 規格を確実に順守するために、STP ケーブルを使用するようにしてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせる適切な処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。

- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

CE770 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

◆ CE770L USB KVM エクステンダー (ローカルユニット)	×1
◆ CE770RQ USB KVM エクステンダー (リモートユニット)	×1
◆ USB KVM ケーブル (1.8m)	×1
◆ 電源アダプター	×2
◆ ラックマウントキット	×2
◆ 多言語版クイックスタートガイド	×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CE770 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに:CE770 を紹介します。特長、機能概要および製品各部名称について説明します。

第2章 セットアップ:迅速かつ安全に CE770 をセットアップする手順について説明します。

第3章 基本操作:CE770 の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 キーボードエミュレーション:PC 互換キーボードから Mac キーボードおよび PC 互換キーボードから Sun キーボードへのキーボードエミュレーションマッピングに関する一覧表を掲載しています。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

概要

CE770 はデスキュー機能を搭載した、USB (ユニバーサルシリアルバス) ベースの KVM エクステンダーです。自動信号補正機能や RS-232C シリアル機能によってリモート USB コンソール (USB キーボード、モニター、USB マウス) を使用してコンピューターシステムにアクセスすることができます。

CE770 を使うことでリモートコンソールからコンピューターシステムにアクセスできるため、コンソールとコンピューターの間の距離を意識せずにシステムを構築することが可能です。例えば、埃などが多い工場現場や建設現場といった環境では、コンピューターシステムは事務所の安全な場所に設置する一方で、コンソールは埃や振動を気にすることなく、現場の使い勝手の良い場所に置くことが可能になります。

デスキュー機能 (ATEN 特許) により長距離送信で発生する RGB 位相やタイミング遅延のエラーを修正します。これはまた、RGB 信号の送信を手動で調整でき、その調整値を保存することもできます。

CE770 はコンソールをユーザーが操作するのに最も便利な場所に置いておくのと同時に、システムユニットは安全な場所に置いておくことができるので、管理やセキュリティの面からもとても便利です。これは機密性の高いデータシステムを管理するのに理想的です。

CE770 は以下の点で従来の機種よりも改良されています。1) デスキュー機能により、RGB 信号の遅延を自動また手動で同期可能。2) ローカルとリモートユニット共に RS-232C ポートを追加。ローカルユニットの RS-232C ポートは設定用のシリアル端末に接続でき、リモートユニットの RS-232C ポートはタッチパネルやバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスに接続可能。3) ローカルユニットに KVM ポートセクションを追加することで、既存システムに対して KVM スイッチをシンプルかつ簡単に増設可能。4) 値段が高く、かさばる標準ケーブルを使用する代わりに、手頃な価格の Cat 5e ケーブルを使用する仕様によって、データ送信の接続を簡素化して利便性を高めると同時に、信頼性も向上。5) システムまでの距離を自動検出し、その距離に合わせて自動的にゲイン調整を実行。6) カスタム ASIC 機能により信頼性と互換性を最大限に確保。

さらに、CE770 の重要な特長は、8KV/15KV 静電放電防止機能と 2KV 電圧サージ防護機能が搭載され、リモートコンソールの画像調節ができるようにリモートユニットにはカラー調整画質補正プッシュボタンが搭載されている点です。

セットアップはとても簡単で、コンピューターシステムとローカルコンソールをローカル CE770L ユニットに接続し、300mまでの Cat 5e ケーブルを使用してローカルユニットとリモート CE770RQ を接続し、そして、リモートコンソールをリモートモジュールに接続するだけです。

特長

- ◆ Cat 5e ケーブルを使用して、ローカルとリモートユニットを 300mまで延長可能
- ◆ デスキュー機能－延長距離に応じて、RGB 信号の遅延を自動的に同期化および補正が可能
- ◆ デュアルコンソール操作－ローカルとリモート USB キーボード、モニター、USB マウスコンソールの両方からシステムの操作が可能
- ◆ ASIC 搭載で信頼性と互換性を向上
- ◆ 自動信号補正機能(ASC)
- ◆ RS-232C シリアルポート－シリアル端末機、タッチパネルやバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスの接続が可能
- ◆ Mac および Sun キーボードエミュレーション対応*
- ◆ オーディオ対応－ステレオスピーカーおよびマイク対応
- ◆ USB 過電流保護・防止機能対応
- ◆ プッシュボタンによる操作モード切替（ローカルユニットのみ）－ボタンを押してローカルと自動操作モードの選択が可能
- ◆ 8KV/15KV ESD 保護(接触放電 8KV、空中放電 15KV)および 2KV サージ保護内蔵
- ◆ 解像度－最大 1920×1200@60Hz (150m)、1280×1024@60Hz (300m)
- ◆ オーディオ対応－300m の距離でもオーディオ品質を保持
- ◆ VGA、SVGA、SXGA(1280×1024)、UXGA(1600×1200)、WUXGA(1920×1200)、マルチスキャンモニター対応、ローカルモニターは DDC、DDC2、DDC2B 準拠
- ◆ ホットプラグ対応
- ◆ ラックマウント対応
- ◆ 簡単セットアップ－ソフトウェア不要、デバイスにケーブルを接続するだけ
- ◆ ワイド画面のフォーマットに対応**

* 1. PC 互換キーボードのキーの組み合わせで Sun/Mac キーボードのエミュレーションを行います。

2. Sun/Mac キーボードはそれぞれに対応したコンピューターでしか動作しません。

** ワイド画面からの EDID データは、ローカル側のビデオ出力ポートから送出されます。ワイド画面用モードやワイド画面対応のディスプレイの場合には、モニターをローカル側のビデオ出力ポートに接続するか、ATEN の EDID エミュレーター(型番:2A-130G)をお使いください。

システム要件

コンソール

- ◆ 接続するコンピューターの最高解像度に対応した VGA、SVGA、SXGA、UXGA、WUXGA、またはマルチスキャンモニター

注意： DDC タイプのモニターをローカルユニットに接続する場合は、リモートユニットに接続するモニターも DDC モニターが提供する最高解像度に対応しなければなりません。

- ◆ USB キーボード

注意： ローカルとリモートユニットに異なるメーカーや型番の USB キーボードを接続することができます。ただし、マルチファンクションキーボードは標準の 104 キータイプのみ対応しています。

- ◆ USB マウス

注意： ローカルとリモートユニットに異なるメーカーや型番の USB マウスを接続することができます。ただし、左右のボタンとスクロールホイール機能のみ対応しており、それ以外のマウス機能には対応しておりません。

- ◆ ステレオマイクおよびステレオスピーカー (オプション)

コンピューター

システムに接続する各コンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、SXGA、UXGA、WUXGA、またはマルチシンクカード
- ◆ USB ホストコントローラーおよび USB Type-A ポート

ケーブル

- ◆ 信号の整合性の最適化やレイアウトの簡素化が実現できるよう、本製品に同梱されている USB KVM ケーブルの使用を推奨します。
- ◆ CE770 のローカルとリモートユニットを接続するためには Cat 5e ケーブルが必要です。低品質のケーブルを使用すると画像信号の劣化を招きますので、Cat 5e ケーブルの使用を推奨します。

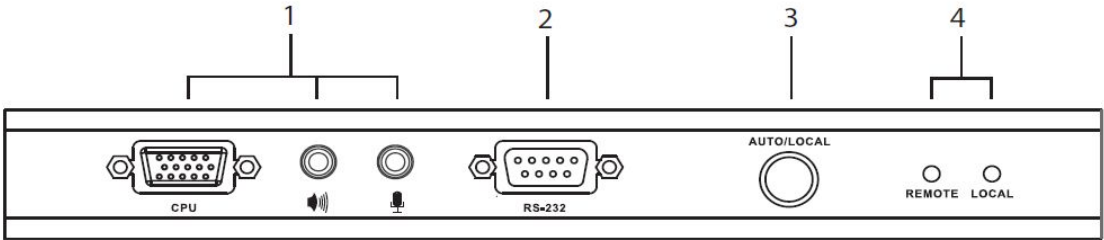
OS

対応する OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 / XP / Vista / 7 / 8.1 / 10
Linux	RedHat	7.1 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	FreeBSD	4.2 以降
Novell	Netware	6.0 以降

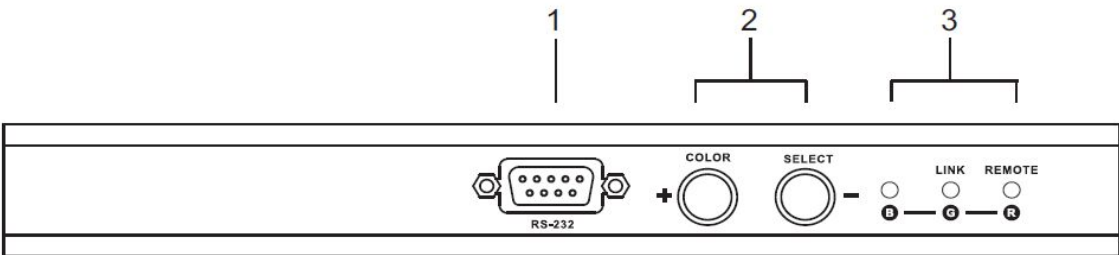
製品各部名称

CE770L(ローカルユニット) フロントパネル



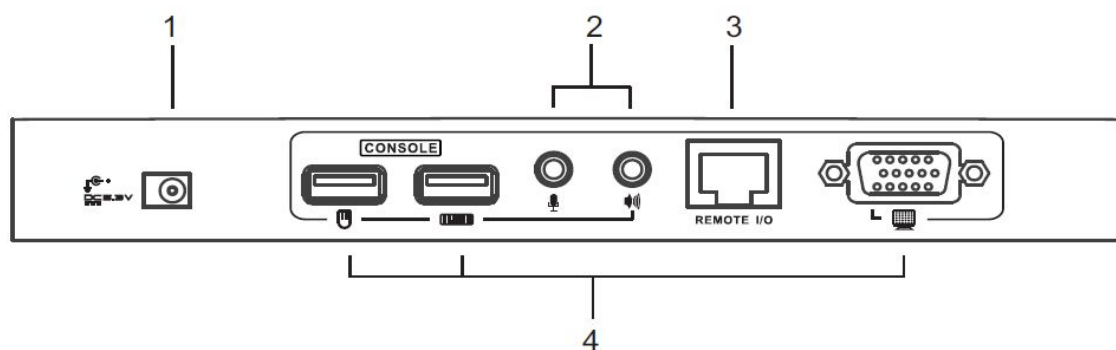
No.	名称	説明
1	KVM ポートセクション	CE770 に KVM スイッチを組み合わせる場合は、スイッチのコンソールセクションの個別のポートに接続する USB KVM ケーブルをここに接続してください。
2	RS-232C シリアルポート	この RS-232C シリアルポートは設定用のシリアル端末機を接続するためのものです。
3	操作モード 押しボタン	この押しボタンはローカルコンソールから利用できる操作モードを切り替えます。 ◆ LOCAL—ローカルコンソールのみがシステムを操作できます。 ◆ AUTO—ローカルとリモートコンソールの両方からシステムが操作できます。 注意: デフォルトの操作モードは「オート」となっています。詳細は、p.25「操作モード」をご参照ください。
4	LED ランプ	CE770 には LED ランプが 2 つあり、ローカル (CE770L) とリモートユニット (CE770RQ) ユニットの操作状況を表示します。詳細は、p.29「LED ランプの表示」をご参照ください。

CE770RQ (リモートユニット) フロントパネル

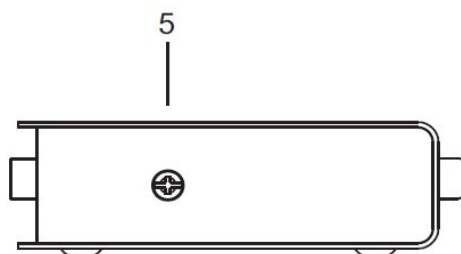


No.	名称	説明
1	RS-232C シリアルポート	タッチパネルやバーコードスキャナーのような RS-232C シリアルデバイスをこのポートに接続します。
2	デスキューおよび画質補正プッシュボタン	このプッシュボタンでリモートコンソールのビデオ画質を調整します。詳細は、p.27「デスキューと画質補正」をご参照ください。
3	LED ランプ、RGB	CE770RQ には LED ランプが 3 つあり、操作状況を表示します。詳細は、p.29「LED ランプの表示」をご参照ください。

CE770L / CE770RQ リアパネル



サイドパネル



No.	名称	説明
1	電源ジャック	DC 電源アダプターからのケーブルをここに接続します。
2	オーディオポート	このステレオミニポートはスピーカー (グリーン) とマイク (ピンク) 用です。
3	リモート I/O	リモートとローカルユニットを接続する Cat 5e ケーブルをここに接続します。
4	コンソールポート	ローカルとリモートコンソールのキーボード、モニター、マウスを各ポートに接続します。
5	グラウンドターミナル	接地線 (ユニットを接地するのに使用する) をここに接続します。詳細は、p.20「製品の接地」をご参照ください。

第2章 セットアップ方法

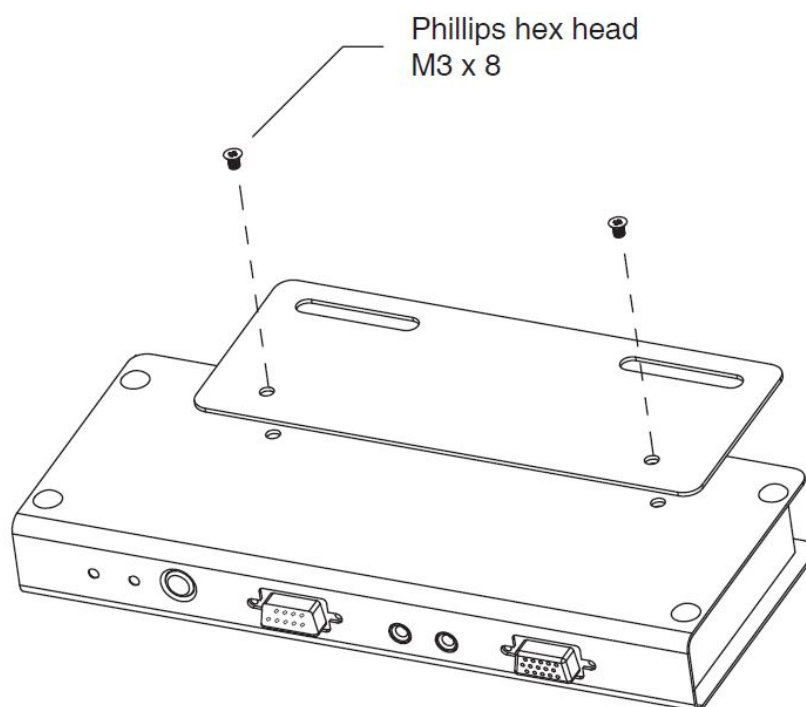


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.4 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

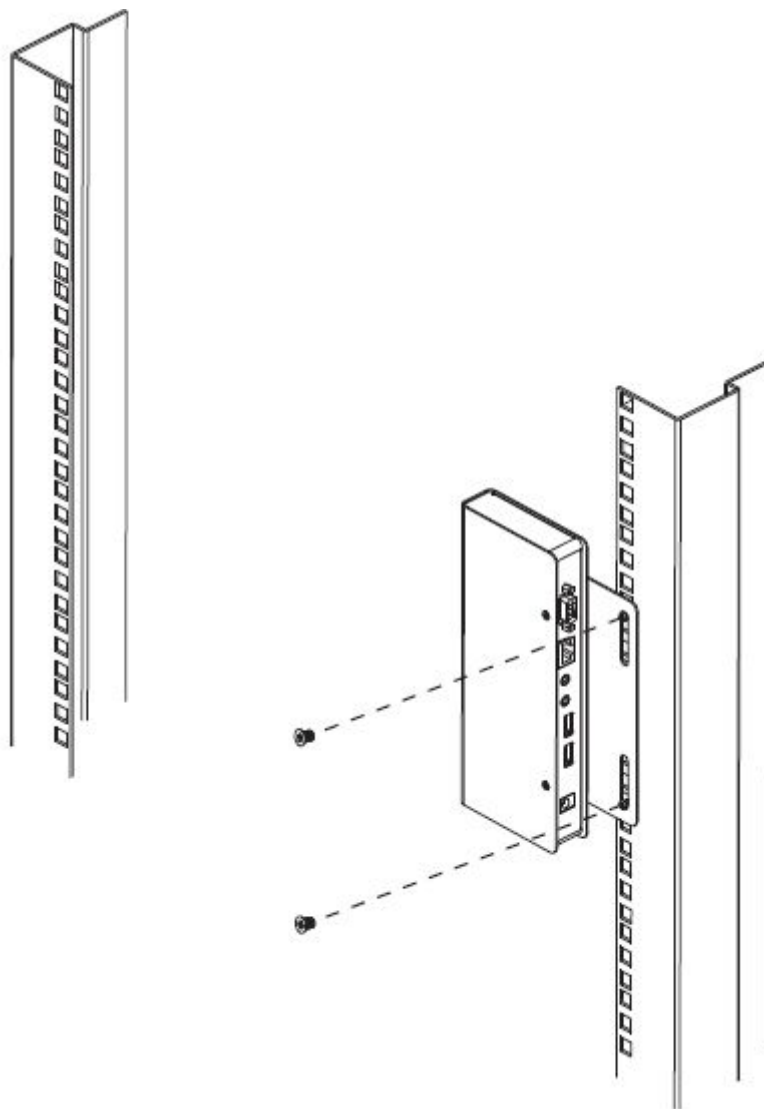
ラックへの取り付け

システムを便利かつ柔軟にお使いいただけるよう、CE770L と CE770RQ はシステムラックに取り付けることができます。本製品をラックへ取り付けるには、下記の手順に従ってください。

1. ラックマウントキットに同梱されているネジを使用して、下図のように製品本体の上面または底面にマウント用の金具をネジ止めしてください。



2. 手順 1 で取り付けした金具をラックの適当な場所にネジ止めしてください。



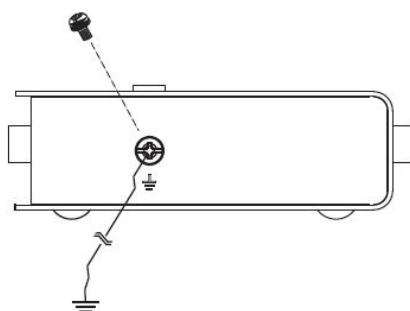
注意: ラックにマウントするためのネジは同梱されていません。お使いのラックに適したネジを別途ご用意ください。

セットアップ

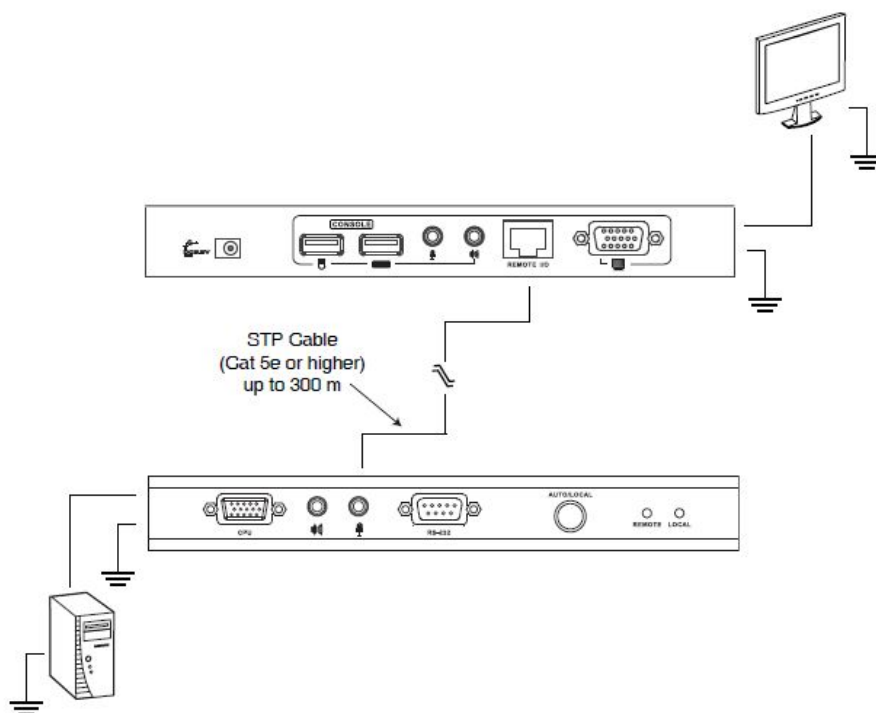
製品の接地

機器の破損を防ぐために、ご使用する機器すべてを適切に接地してください。

1. 接地線を 2 本使用して、片方の端を製品のグラウンドターミナルに、もう片方の端を適切な接地物にそれぞれ接続して、各ユニットの接地を行ってください。

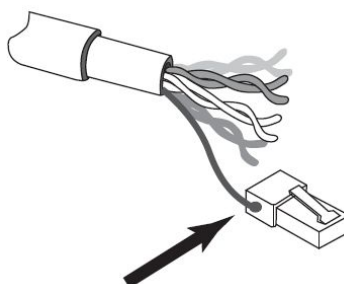


2. CE770L/CE770RQ に接続されているコンピューターおよびモニターも、それぞれ正しく接地してください。

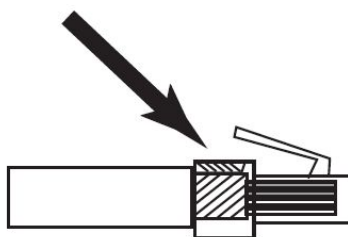


3. 接地の効果を高めるために、ローカル/リモートの各ユニットはSTPケーブルを使って接続してください。方法は2種類あります。

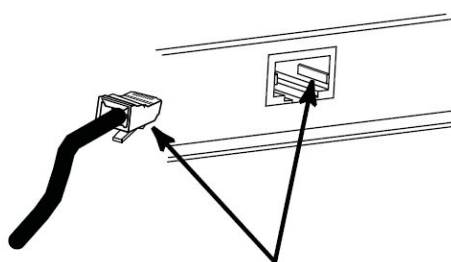
- a) STP ケーブルには、信号の伝送に使用する8線以外に接地線を有しているタイプがあります。このタイプのケーブルの場合は、接地線を図のように RJ-45 コネクターにはんだ付けしてください。



- b) 2つ目の方法は STP ケーブルシールドをアースとして使用しているタイプのものです。その場合、下図のように RJ-45 コネクターの中の上部がしっかりとシールドに接触していることを確認してください。



- c) いずれの方法においても、下図のように RJ-45 コネクターのサイドが RJ-45 ソケットのサイドにある接地接点としっかり接していることを確認してください。



セットアップ

CE770 USB KVM エクステンダーのセットアップに必要な作業は、ケーブルを接続するだけです。接続するデバイスの電源がすべて切られていることを確認してください。次のページにある接続図を参考にしながら、下記の手順でセットアップを行ってください。

1. ローカルコンソールとして使用するデバイス(マウス、キーボード、モニター、マイク、スピーカー)をローカルユニット(CE770L)のリアパネルにあるコンソールセクションにある対応ポートにそれぞれ接続してください。各ポートには各デバイスのアイコンが描かれています。
2. 製品に同梱されている USB KVM ケーブルの各コネクタを、ローカルユニット(CE770L)のフロントパネルにある CPU セクションのポートにそれぞれ接続してください。
3. 手順 2 の USB KVM ケーブルのもう一方の端をローカルコンピューターの適切なポートにそれぞれ接続してください。各コネクタにはそれぞれのアイコンが描かれています。

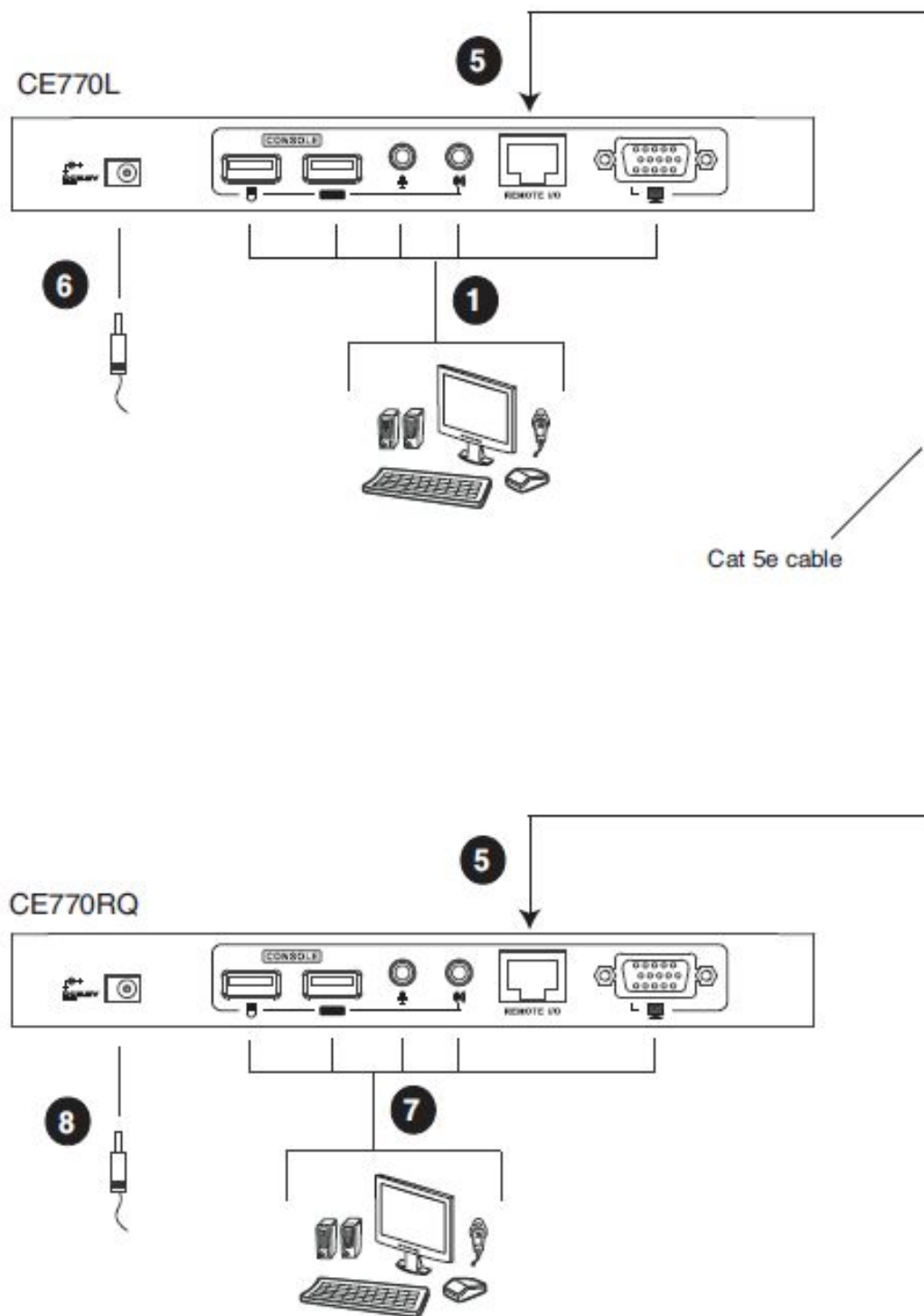
注意: CE770 に KVM スイッチを組み合わせて使用する場合は、手順 2 の USB KVM ケーブルのもう一方の端を KVM スイッチの適切なポートに接続してください。

4. シリアルデバイスを操作するには、ローカルユニットの RS-232C シリアルポートをローカルコンピューターのシリアルポートに接続してください。
5. Cat 5e ケーブルを CE770L のリモート I/O ポートに接続し、この Cat 5e ケーブルのもう一方の端をリモートユニット(CE770RQ)の I/O ポートに接続してください。
6. 本製品に同梱されている電源アダプターのプラグ部分を電源コンセントに接続してから、この電源アダプターのケーブル部分を CE770L の電源ジャックに接続してください。
7. リモートコンソールデバイス(マウス、キーボード、モニター、スピーカー、マイク)のケーブルを CE770RQ のコンソール側にある各ポートに接続してください。
8. 製品に同梱されている残りの電源アダプターのプラグ部分を電源コンセントに接続してから、この電源アダプターのケーブル部分を CE770RQ の電源ジャックに接続してください。

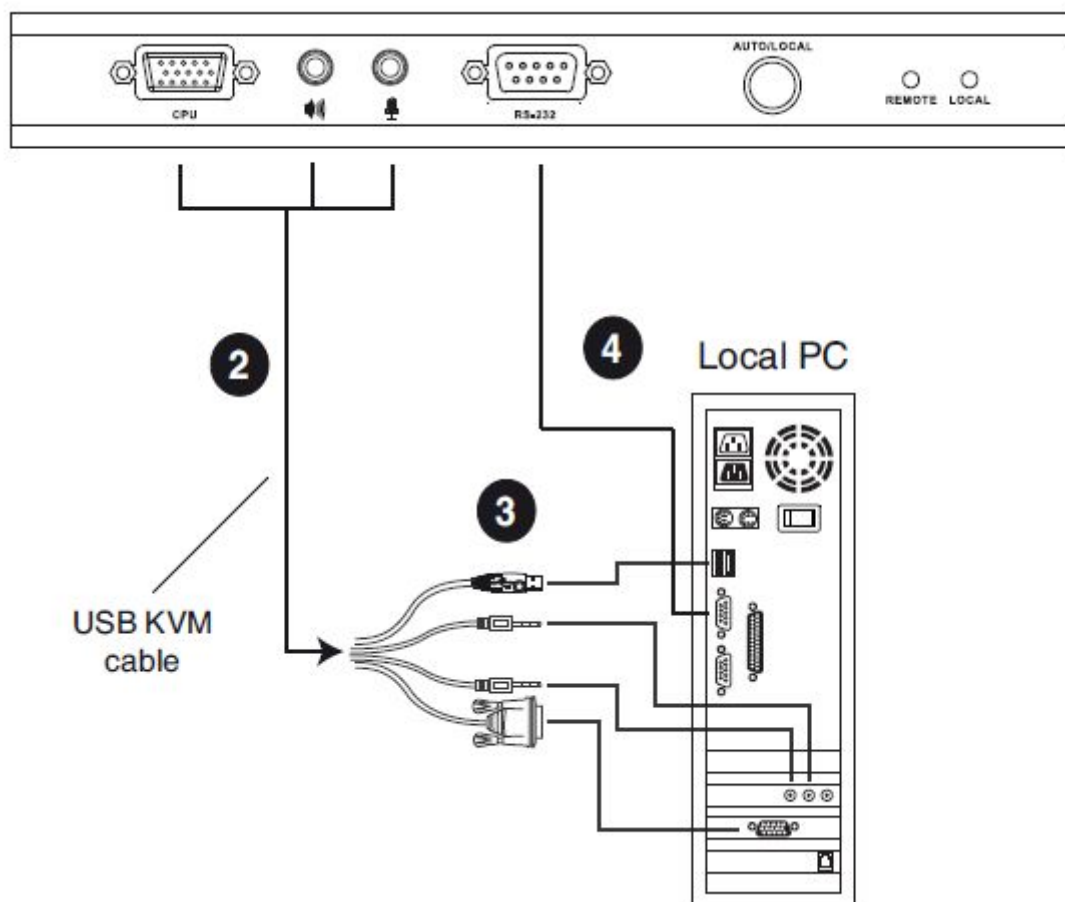
注意: Cat 5e ケーブルをホットプラグすると自動的にデスキュー機能が起動します。

接続図

CE770L / CE770RQ リアパネル



CE770L フロントパネル



第3章 操作方法

操作モード

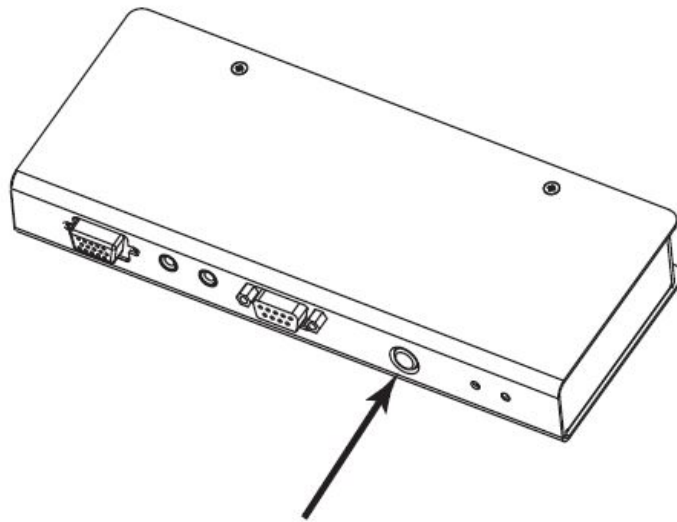
CE770 USB KVM エクステンダーには下表のように、ローカル、オート、リモートの3つの操作モードがあります。

操作モード	説明
ローカル	ローカルコンソールのみがコンピューターを操作できます。リモートコンソールのキーボードとマウスは使用できません。
オート	ローカルとリモートコンソール共にコンピューターの操作ができます。ただし同時にはアクセスできません。アクセス権のないコンソールは、アクセス権があるコンソールからのデータ入力終了するまで待たなければなりません。
リモート	リモートコンソールでコンピューターの操作ができます。リモートモードはCE770Lのプッシュボタンで「オート」に設定し、ローカルコンソールが待機状態のときに使用可能となります。詳細は p.26 の「注意」を参照してください。

注意： 操作モードのデフォルト設定は、「オート」になっています。

操作モードの選択

CE770L のフロントパネルにある「操作モードプッシュボタン」で、CE770 USB KVM エクステンダーの操作モードが管理できます。このボタンを押すと、「ローカル」と「オート」に操作モードが交互に切り替わります。



Auto/Local (オート/ローカル) ボタンを押して、「**ローカル**」を選択すると、LOCAL LED がグリーンに点灯し、ローカルユニットに接続されたコンソールのみコンピューターを操作することができます。この**ローカル**モードでは、リモートユニットに接続されたコンソールからコンピューターを操作することはできません。

Auto/Local (オート/ローカル) ボタンを押して、「**オート**」を選択すると、REMOTE と LOCAL LED が交互に点滅します。ローカル側またはリモート側からコンピューターを操作するまで LED は点滅します。この**オート**モードでは、ローカルユニットまたはリモートユニットに接続されたコンソールのどちらからでもコンピューターを操作できますが、同時に操作することはできません。

注意: この機種にはリモートモードはありません。リモートコンソールからコンピューターが操作できるのは、CE770L の操作モードプッシュボタンで「オート」に設定され、かつローカルコンソールが待機中のときだけです。リモートコンソールが 5 秒以上待機状態になると、ローカルコンソールからアクセス可能になります。この待機時間の変更はできません。

デスキューと画質補正

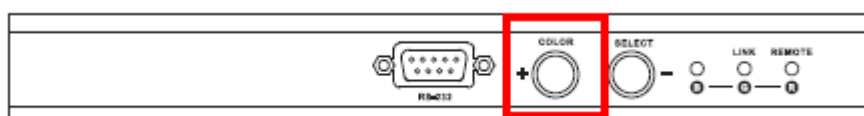
CE770RQ は、自動および手動によるビデオ調整に対応しています。

◆ 自動調整

- CE770RQ は ASC(自動信号補正)機能を特長としています。これは、ビデオの調整と設定の保存を自動的に行う機能です。
- CE770RQ のもう一つの特長はデスキュー機能です。これは、RGB 信号の強さと RGB 各色のタイミングのずれを距離に応じて手動/自動で補正する機能です。この調整は、CE770RQ に Cat5e ケーブルが接続された時に行われます。
- 現在の CE770RQ におけるビデオ補正設定をリセットし、自動調整機能を実行するには、**デスキュー/画質補正**プッシュボタン(+および-)を同時に長押ししてください。

◆ 手動調整

- ビデオ信号を微調整するには、**COLOR** ボタンを押して各オプション(レッド、グリーン、ブルー、補正)を順に切り替え、設定を変更してください。詳細は下表のとおりです。



ボタン/スイッチ	説明
COLOR(+)	<ol style="list-style-type: none">このボタンを押して指を離すと、レッドカラーモードになります。 (+)または(-)を使用して、調節してください。このボタンを 2 秒間長押しすると、カラースケールの OSD が起動します(カラーが選択されていない場合)。カラーバーを使って各色の調整を行ってください。このボタンを 2 秒間長押しすると、カラーモードまたは補正を変更します(選択されている場合)。R→G→B→ビデオ補正→exit→R・・・の順に切り替わります。カラー/補正が選択されているときに、このボタンを押して指を離すと、値(遅延時間/補正)を増やします。
SELECT(-)	<ol style="list-style-type: none">このボタンを押して指を離すと、レッドカラーモードになります。 (+)または(-)を使用して、調節してください。カラー/補正が選択されているときに、このボタンを押して指を離すと、値(遅延時間/補正)を減らします。

映像パターンは、赤青緑と白色の縦線が並んだパターンが表示されます。画面下に赤青緑いずれかの四角形が表示されている場合は、現在その色の設定をしていることを示します。四角がない場合は、シャープネスの設定となります。赤青緑の縦線がギザギザになることなく、まっすぐな直線に、白い縦線の輪郭に赤青緑の色にならないよう調整を行ってください。一般的にアナログ信号では高解像度の映像になるほど、ぼけたような表示やノイズによるゴーストの影響を受けやすくなりますため、調整を行ってください。

補正信号のタイミングを極端な設定にすると画面ノイズが表示されたり、画面が表示出来なくなったりするおそれがあります。その場合は、逆の補正ボタンで設定をすることで元に戻る事ができます。

映像の補正中に一定時間、無操作でいると補正モードは終了し、オートモードに戻ります。

もし、起動時の設定に戻したい、画面が映らなくなったなどの場合は、リモートユニットがオートモードになっていることを確認してから COLOR、SELECT の両ボタンを同時に長押しして、自動設定モードを手動で起動し、改善するかどうかをお試ください。

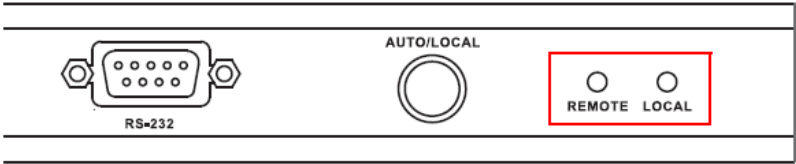
自動設定モードとは、CE770 の本体に電源が入った時に通信準備を自動的に行うモードの事で、ケーブルの長さや品質などの環境などからローカルユニットとの通信調整を自動的に行い、映像信号や補正を自動的に補正します。起動順番が正しくない、電源投入時に何らかの理由でこのモードが起動しなかった、長時間の起動によって映像信号のタイミングにずれが発生した場合などに、このモードを手動で起動することによって、設定をリセットしてお使い頂くことができます。

LED ランプの表示

CE770 のローカルとリモートユニットのフロントパネルにある LED ランプは下表のように操作状況を表示します。

注意: 操作モードの違いについては、p.25 の「操作モード」をご参照ください。

CE770L(ローカルユニット)

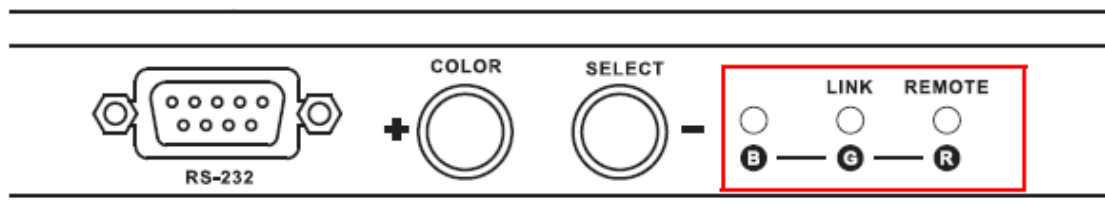


LED ランプ	操作モード	
	ローカル	オート
LOCAL (グリーン)	<ul style="list-style-type: none">◆ ローカルコンソールがコンピューターにアクセスしていると、グリーンに点灯します。◆ ローカルモードの場合、ローカルLEDは常時グリーンに点灯します。この時、リモートコンソールはコンピューターにアクセスすることができません (p.25 参照)。	<ul style="list-style-type: none">◆ 両方のコンソールがコンピューターに対するアクセスを待機している場合、ローカルLEDとリモートLEDは交互に点滅します(オートモード)。◆ ローカルコンソール側のユーザーがキーボードからキー入力を行ったり、マウスを動かしたりすると、ローカルLEDはグリーンに点灯し、コンピューターがアクセスされていることを表します。◆ ローカルコンソールが非アクティブの状態 で 4 秒以上経過すると、ローカルLEDとリモートLEDが交互に点滅し、両方のコンソールがコンピューターに対するアクセスを待機していることを表します。

(表は次のページに続きます)

LED ランプ	操作モード	
	ローカル	オート
REMOTE (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リモートコンソールがコンピューターにアクセスしていると、グリーンに点灯します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 両方のコンソールがコンピューターに対するアクセスを待機している場合、ローカルLEDとリモートLEDは交互に点滅します(オートモード)。 ◆ リモートコンソール側のユーザーがキーボードからキー入力を行ったり、マウスを動かしたりすると、リモートLEDはグリーンに点灯し、コンピューターがアクセスされていることを表します。 ◆ リモートコンソールが非アクティブの状態で4秒以上経過すると、ローカルLEDとリモートLEDが交互に点滅し、両方のコンソールがコンピューターに対するアクセスを待機していることを表します。

CE770RQ (リモートユニット)



LED ランプ	説明
LINK (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オレンジ色に点灯している場合は、ローカルユニットとの接続が確立されていることを表しています。 ◆ オレンジ色に点滅している場合は、ローカルユニットとの接続に問題があることを表しています。
REMOTE (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ レッドに点灯している場合は、リモートコンソールからコンピューターにアクセスしていることを表します。 ◆ ローカルコンソールからコンピューターにアクセスしていると、この LED は OFF になります。 ◆ オートモードが選択されており、ローカルとリモート両方のコンソールがコンピューターへのアクセスを待機している場合は、レッドに点滅します。
B (ブルー)	点滅している場合は、ブルーが選択されており、(+) および (-) のプッシュボタンでブルーの映像信号の遅延時間が調節できることを表します。
G (グリーン)	点滅している場合は、グリーンが選択されており、(+) および (-) のプッシュボタンでグリーンの映像信号の遅延時間が調節できることを表します。
R (レッド)	点滅している場合は、レッドが選択されており、(+) および (-) のプッシュボタンでレッドの映像信号の遅延時間が調節できることを表します。
R および G (レッド / グリーン)	レッドとグリーンが両方点滅している場合は、ビデオ補正が選択されており、(+) および (-) のプッシュボタンでビデオ補正の設定が調節できることを表します。

ホットキーセッティングモード

アドミニストレーターとユーザーは、ホットキーを組み合わせて、KVM エクステンダーの作業環境のパラメーターを設定することができます。ホットキーの入力は全てホットキーセッティングモード (HSM) を起動させることから始めます。

ホットキーセッティングモードの起動

ホットキーセッティングモード (CE770L のみ) を起動させるには、以下を行ってください。

1. [Ctrl] キーを押したままにしてください。
2. [F12] キーを押して指を離してください。
3. 最後に [Ctrl] キーから指を離してください。

注意: HSM を起動させるための代替ホットキーもあります (詳細は p.33「ホットキーセッティングモードの代替起動キー」を参照)。

ホットキーモードが起動している場合

- ◆ Caps Lock および Scroll Lock の LED ランプが連続して点滅し、HSM が有効であることを表します。HSM を終了すると、点滅を止め、通常の状態に戻ります。
- ◆ モニター画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインのプロンプトは、青地に黄色の文字で「Hotkey」という単語です。入力したホットキー情報がコマンドラインに表示されます。
- ◆ 通常のキーボードおよびマウスの機能は一時停止し、ホットキーに準拠したキーボード入力とマウスクリック (詳細は次章を参照) のみ入力できます。
- ◆ いくつかのホットキーは入力が完了すると自動的に HSM を終了します。それ以外のホットキーは手動で HSM を終了させなければなりません。HSM を手動で終了させるには、[Esc] キーまたはスペースキーを押してください。

ホットキーセッティングモードの代替起動キー

デフォルトのホットキーセッティングモードの起動キーがコンピューター上で動作しているプログラムと競合した場合に備え、このキーの代替起動キーが提供されています。

ホットキーセッティングモードの代替キーに切り替える場合は、下記の手順に従ってください。

1. ホットキーセッティングモードを起動してください(p.32 参照)。
2. [H]キーを押して指を離してください。
ホットキーセッティングモードの起動キーが[Ctrl]キーから[Num Lock]キーに、[F12]キーから[–]キーに変更されます。

注意: この操作は、デフォルトキーと代替キーに交互に切り替えます。元の[Ctrl][F12]のホットキーセッティングモード起動キーに戻す場合は、もう一度HSMを起動して[H]キーを押してください。

キーボード操作プラットフォーム

CE770 のデフォルト設定は、PC 互換のキーボード操作プラットフォームに設定されています。Mac または Sun を使用する場合は、キーボードの操作プラットフォームを以下のように変更できます。

1. HSM を起動してください(p.32 参照)。
2. 適切なファンクションキーを押して指を離してください(下表参照)。

ファンクションキー	機能
[F1]	現在 KVM 操作ができるポートに PC 互換キーボード操作プラットフォームを設定します。
[F2]	Mac キーボードエミュレーションを有効にします。
[F3]	Sun キーボードエミュレーションを有効にします。
[F4]	KVM の現在の設定をプリントアウトし、HSM を終了します。

-
- 注意:**
1. 括弧書きは入力するキーを表しています。そこに示されたキーを入力するだけです。括弧書きは入力しないようにしてください。
 2. 設定が終了すると、自動的に HSM を終了します。
-

ホットキー一覧表

HSM (p.32 参照) を起動させた後、下記のキーのいずれかを入力して、そのキーに対応した機能を実行してください。









ファンクションキー	機能
[H]	ホットキーセッティングモード起動キーをデフォルトキー ([Ctrl][F12]) と代替キー ([Num Lock][－]) に交互に切り替えま す。
[F1]	現在 KVM 操作ができるポートに PC 互換キーボード操作プラッ トフォームを設定します。
[F2]	現在 KVM 操作ができるポートにおいて、Mac キーボードエミュ レーションを有効にします。
[F3]	現在 KVM 操作ができるポートにおいて、Sun キーボードエミュ レーションを有効にします。
[F4]	KVM の現在の設定をプリントアウトし、HSM を終了します。

注意: 括弧書きは入力するキーを表しています。そこに示されたキーを入力するだけで
すので、括弧書きは入力しないようにしてください。

第4章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード



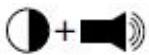




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー
([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

付録

製品仕様

機能	CE770L	CE770RQ
コンピューター接続数		
ダイレクト	1	–
コンソール接続数		
ローカル	1	–
リモート	–	1
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB	–
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB	キーボード/マウス:USB
コネクター		
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター: SPHD メス(イエロー)×1 スピーカー:ステレオミニジャック ×1 マイクروفオン:ステレオミニジャック ×1	–
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:D-Sub 15 ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック ×1 マイクروفオン:ステレオミニジャック ×1	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:D-Sub 15 ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック ×1 マイクروفオン:ステレオミニジャック ×1
RS-232	コンピューター側コネクター:DB-9 ピン メス(ブラック)×1	コンソール側コネクター:DB-9 ピン オス(ブラック)×1
電源	DC 電源ジャック×1	DC 電源ジャック×1
ユニット間	RJ-45×1	RJ-45×1

(表は次のページに続きます)

機能	CE770L	CE770RQ
プッシュボタン		
操作モード選択	プッシュボタン×1	－
色	－	カラー/UP:プッシュボタン×1
選択	－	選択/DOWN:プッシュボタン×1
LED		
ローカル	グリーン×1	－
リモート	グリーン×1	－
B	－	ブルー×1
G	－	オレンジ/グリーン×1
R	－	レッド×1
エミュレーション		
キーボード/マウス	USB	USB
解像度	最大 1920×1200@60Hz(150m)、 1280×1024@60Hz(300m) DDC、DDC2、DDC2B 準拠	最大 1920×1200@60Hz(150m)、 1280×1024@60Hz(300m) DDC、DDC2、DDC2B 準拠
最大延長距離(解像度)	300m (1280×1024@60Hz)	300m (1280×1024@60Hz)
電源入力		
電源アダプター	型番: 0AD8-0605-24EG または 0AD8-0605-24MG 入力: AC 100V～240V 50/60Hz 出力: DC5.3V 2.4A	型番: 0AD8-0605-24EG または 0AD8-0605-24MG 入力: AC 100V～240V 50/60Hz 出力: DC5.3V 2.4A
電源		
消費電力	DC5.3V:2.74W	DC5.3V:4.54W
動作環境		
動作温度	0～50℃	0～50℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと	0～80% RH、結露なきこと

(表は次のページに続きます)

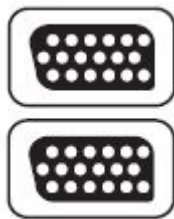
機能	CE770L	CE770RQ
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.49 kg (1.08 lb)	0.49 kg (1.08 lb)
サイズ(W×D×H)	202×87×25 mm	202×87×25 mm
同梱品	(CE770 の同梱品) 2L-5302U(1.8m)ケーブル×1 電源アダプター×2 ラックマウントキット×2 クイックスタートガイド×1	(CE770 の同梱品) 2L-5302U(1.8m)ケーブル×1 電源アダプター×2 ラックマウントキット×2 クイックスタートガイド×1

トラブルシューティング

操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まずケーブルが各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

問題	解決方法
画像が映らない	各ケーブル全てが各ポートに正しく接続されていることを確認してください。
画質の劣化	Cat5e ケーブルをもう一度ホットプラグすることで、デスクュー機能を起動してください。 CE770RQ の画質補正プッシュボタンを押して、ビデオ信号補正を増加または減少させると、画質が改善されることもあります。 解像度を下げると画質が改善されることもあります。

SPHD コネクタについて



本製品はKVMポートまたはコンソールポートに対してSPHDコネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用のKVMケーブルのみ製品に接続することが可能です。